

## 第2回 第7回中海自然再生協議会

日時 2019年10月12日(土) 13:30~16:00

場所 島根県庁会議棟 第2会議室(1階奥)

国井 令和元年第2回 第7回中海自然再生協議会 開始

### 議事1「今後の部会運営について」

4つの部会を設けることを前回の会議で承認を受けたことを確認し、部会立ち上げのためのリーダーを決めることとした。今回、各部会のテーマに関して中心的な活動を行ってきた人をリーダーとすることを提案し、倉田(海藻) 熊谷(湖岸) 桑原(窪地) 国井(全体構想)の各4名が各部会のリーダーとなることとなった。各部会のリーダーにコメントをお願いした。

熊谷 湖岸部会のリーダーについては、各部会での話し合いで今後変更があることを了承いただきたい。

国井 そのことについて了解したい。

神谷 リーダーの変更の手続きについて確認したい。部会ごとで決議したり、全体の会議で承認したりする必要があるのか?

国井 各部会で話し合い、年度末の全体の協議会で報告してほしい。

渡部 (倉田氏欠席により渡部氏が海藻部会についてコメントした。)海藻の打ち上げについて対応してきた過去の経緯を説明した。  
また、セブンイレブン財団より基金の支援をいただき事業が進められていることを報告された。

熊谷 湖岸部会では、浚渫窪地での埋め戻しに対して、湖岸部会では中海の周囲の自然再生を目指して活動をしていきたい、島根鳥取県の整備しているサイクリングロードは湖岸から遠いという問題や拠点整備などに関しても取り組んでいきたい。

桑原 現在、くぼ地内に山型のふく砂実験を進めている。現在、実験途中であるが山型の頂上部ではヘドロがたまっていないことを確認している。また、今年度は錦海-穂日島沖のくぼ地をうめ戻すこととなっている。

國井 環境省では、この自然再生協議会の設立のもとになっている自然再生推進法の基本方針の見直しを5年ごとに行っている。今年、その方針が変更される予定であり、これに合わせて本協議会でも全体構想の見直しをしていく予定である。

外谷(中海漁協)

くぼ地の埋め戻しなど、どこまでを協議会で実施と考えるべきなのか? 国土交通省や、島根県鳥取県が実施すべき事業の規模ではないのか?

國井 協議会では、環境省の総合推進費で住民合意による埋め戻しの実証実験を開始した。現在、行っている埋め戻しは、本当に中海にとって良いか実証実験の段階である。協議会で中海の窪地すべてを埋め戻すことは難しい。将来的には、国土交通省や島根県・鳥取県で実施していってもらいたいことになると思う。

山本 鳥取県・島根県が行っている中海会議などで、積極的に情報を発信していくべきではないか?

永島(島根県)

中海会議は、行政の長の集まりである。8月6日に開催した水質関係のワーキングでは、窪地の水質に関するシミュレーションの結果を公表している。その結果、環境基準の項目に関しては、よくなる原因は環境負荷であるとされていた。中海会議は、「治水」「水質」「弓ヶ浜の排水不良」「賢明利用」の四つの分会がある。どの部会で自然再生協議会の議論を活用してゆけるか問い合わせしてゆきたい。

山本 中海会議の情報をもう少し出していきたい。シミュレーションについて、どのような計算をしているか具体的にわからない。

永島 窒素、リンなど環境基準に沿ったものである。  
流入負荷については、表層が検討対象になっている。

山本 中海会議と専門的な論議や意見交換をしてゆきたい。ご協力をお願いしたい。

國井 今後についてだが、各部会のリーダーに集まっていただくリーダー会議を実施して、それから各部会のリーダーから各メンバーに招集をかけて進めていきたい。

## 議事2 「全体構想の見直しについて」

國井 環境省の自然再生基本方針の変更について環境省の公表している資料をもとに説明を行った。

國井 中海の全体構想の変更について指針の説明を行った。今までのようにやりたいことを書くのではなく、できることを書くという方向でゆきたい。  
基本方針の五本柱の変更し、実施する事業と基本方針との整合性を高める。

澤田 もう少し、環境教育や心の教育になど市民を巻き込むことに力を入れてはどうか？  
例えば、洗剤の利用の抑制を進めて、リン・窒素の流入を少なくするとかどうだろう。

國井 環境教育について入れていくことは、可能と思う。  
また、洗剤については、問題にしてこなかった。少し古いかもしれないが検討の余地がある。

山本 流入負荷については、シミュレーションで自然系が大きな要因となっており、他の要素については、もう削減は不可能なところに来ている。

## 議事3 その他

國井 これから部会での議論が中心となるため、本日出席者全員から自己紹介も含め感想意見を述べていただきたい。

参加者 全員(26名)が、感想意見を述べて終了した。